

2016 年度（第 6 事業年度）

「事業報告書」

一般財団法人 Ruby アソシエーション

1 事業の概要

2016年度の当財団の活動は、利用者がRubyを安定して利用できるよう、また便利に使えるように、Ruby安定版保守業務、公募型開発プロジェクトの開発支援を昨年度に引き続き継続しました。情報発信事業においては、Ruby関連のイベントを主催しコミュニティの交流促進を図りました。Ruby技術者認定試験では、海外版Gold試験の開始、国内では学割の更なる価格引き下げで、より多くの受験者に試験を受けていただける環境を整えました。

当財団は、その目的であるRuby関連のプロジェクトやコミュニティ、ビジネスの関係をより良好なものとし（「Ruby Eco System」の構築）、ビジネス分野におけるRubyの利用に関する諸課題の解決に取り組みました。

本書では当財団の2016年度の実施状況について報告します。

2 体制及びその変更

1) 評議員

2016年度評議員

- ・石川 明 (株)日立ソリューションズ
- ・出田 健二 (株)まちづくり三鷹
- ・及川 喜之 (株)セールスフォース・ドットコム
- ・大場 寧子 (株)万葉
- ・後藤 裕蔵 (株)ネットワーク応用通信研究所
- ・最首 英裕 (株)グルーヴノーツ
- ・立久井 正和 (株)インターネットイニシアティブ
- ・中島 宏 (株)DTS
- ・羽田 昭裕 日本ユニシス(株)
- ・平松 知江子 (株)富士通ソーシアルサイエンスラボラトリ
- ・森 正弥 楽天(株)
- ・吉岡 宏 (株)テクノプロジェクト
- ・吉田 正敏 富士通(株)

2) 理事

- ・代表理事 理事長 松本 行弘
- ・副理事長 井上 浩
- ・理事 山根 泉
- 橋本 明彦
- 田中 和明
- 笹田 耕一

3) 監事、顧問及び事務局

- ・ 監 事 今岡 正一（公認会計士）
- ・ 顧 問 松浦 正敬 松江市長、溝口 善兵衛 島根県知事
- ・ 事務局 前田修吾（事務局長）が事務局業務全般を統括し、常勤スタッフ
2名の他、松江市、島根県による人的支援によって運営しました。そ
の他、事例収集のため外部のライターと、規格文書の保守および改訂
の作業のため外部の専門家と契約を行っています。

4) 評議員選定委員会

- ・ 委員長 立久井 正和（評議員）
- ・ 委 員 今岡 正一（監事）、横田 早百合（事務局員）、
田代 秀一（外部委員）、高橋 征義（外部委員）

3 実施事業

1) 公募型開発支援プロジェクト

Ruby 及び周辺環境の改善を目的に Ruby 処理系、ライブラリ及びフレームワークに
関連する開発プロジェクト（既存のソフトウェアを改良するプロジェクトを含む）を公募
し、開発助成委員会で選考の結果、以下4件のプロジェクトを採択しました。

いずれも2017年3月31日までに開発を終え、その成果を公開しました。

- ・ 応募件数：13件
- ・ 採択件数4件

① 採択者：Arafat Khan	プロジェクト：Complete compatibility of Tensorflow.rb with Tensorflow C API
This project aims at making Tensorflow.rb completely compatible with Tensorflow C API. Currently many interesting developments are taking place in Tensorflow and by the end of the project all the functionalities of the C API of Tensorflow must be easily accessible from the Ruby API.	
②採択者：Sameer Deshmukh	プロジェクト：Rubex - A new language for writing Ruby extensions
Rubex is basically a superset of the Ruby Programming Language that will allow users to write Ruby C extensions for the CRuby interpreter without having to leave the comfort of Ruby.	
③採択者：岸本 誠	プロジェクト：Ruby/Numoの整備
Ruby Numo (NUmerial MOdule) プロジェクトのうち、未実装の部分が残っている線形代数ライブラリとGNU Scientific Library (GSL) ライブラリについて、実装作業を行なう。線形代数ライブラリについては、numo-lapackとしてLAPACKに直接的なインタフェースを提供し、NumPy linalgと同等程度の関数の実装を目標とする。	
④ 採択者：西田孝三及び他2名	プロジェクト：Rubyを用いた初等統計解析の整備と構築
我々は「Rubyをデータサイエンスにおいて実用に足る言語にすること」を目的とし「初等統計解析パイプラインの整備と構築」を行う。近年データサイエンスに必要な機能を実装したNyaplotやDaruといったgemの開発が行われているものの、これらのgemはまだ一般的に活用されていない。この主な原因は「gem連携の未熟さ」「啓蒙文書の不足」の2点にある。例えばPythonにおいては複数のパッケージを組み合わ	

せた実用的な例が詳細なドキュメントと共に提供されておりこれらの点の心配が無い。我々は冒頭に挙げたパイプラインの作成を通じ、gemを組み合わせどのようにデータの入力・解析・可視化を行えばよいかを示したマニュアルの作成を行う。またこれに伴い、不足機能の追加・不足gemの作成・既存gemのバグフィックスも適宜行いgem間の連携もより簡単なものにする。

2) その他助成

本年度より用途を限定しない助成金の申請窓口を設置し、公募型開発以外の分野でも助成を受け付けました。以下はその成果です。

(1) Ruby 開発者会議、開発合宿支援

次世代のRuby開発に向けてRubyコア開発者が集まって、開発や議論が行える場所を企画提供しました。

(2) RubyWorld Conference 2016 渡航費支援

Rubyコミュニティの交流促進を目的として海外からのカンファレンス参加者2名に対して旅費助成を実施しました。

Pulkit Bhatia さん (インド 大学生)

Emma Beynon さん (イギリス Rubyプログラマ)

3) Ruby安定版保守事業

ユーザーが安心してRubyを利用できる環境を構築するため、Ruby安定版の保守事業を実施しています。事業仕様策定後に業務を外部機関に委託することとし、委託先の選定に際し公募を行った結果、引き続き中村宇作様を委託先に決定しました。委託期間は2017年3月31日となっています。また2016年度も引き続き、アメリカの非営利組織であるRuby Centralより本事業に対して助成金の交付を受けました。

4) Rubyに関する情報発信事業

(1) 事例紹介

協賛会員をはじめ、Rubyをビジネス利用する企業の企業担当者に直接面談し、概要情報と詳細情報を作成しました。これらの情報は、利用時の背景事情、適用されたビジネス・システム分野やその特性など、利用企業のみならずエンドユーザ(企業や個人の場合あり)の損益にも深く関わる場合があることから、公開前に利用企業等による内容確認を実施し(その際にエンドユーザに了解を得ることもあった)、関係者合意の上で財団ホームページに掲載しました。2016年度は新たに6件の利用事例を紹介しました。

2016年度掲載企業	テーマ
株式会社日本エンブレース	医療介護のメディカルケアステーション
株式会社オネスト	松江観光のお供に縁結びスマートナビ

株式会社日立ソリューションズ	Web アプリケーションとメールフィルタを Ruby でマイグレーション
株式会社リクルートライフスタイル	Ruby 導入でプログラマの美德を改めて意識
ラクスル株式会社	Ruby をつかうことで一か月半でサービスをフルリプレイス
株式会社アジャイルウェア	マネージャのための Redmine Lychee Redmine

(2) ウェブサイトのリニューアル

Ruby アソシエーションのウェブサイトのリニューアルしました。旧サイトの情報を整理して発信することにより、来訪者が必要とする情報にアクセスしやすくなりました。またデザインもレスポンシブデザインとし、様々なデバイスからの閲覧性も向上しています。

(3) RubyWorld Conference 2016 の開催

2016 年 11 月 3 日(木・祝)、4 日(金)に島根県松江市で開催された RubyWorld Conference 2016 において開催実行委員会の構成団体として参加しました。

(4) Ruby ビジネスセミナー、イベント開催

① Ruby ビジネスセミナー

当財団の単独主催、又は関係機関との共催、協力を得てビジネスセミナーを開催致しました。これらのセミナーでは、Ruby の利用状況と今後のビジネストrendをはじめ、開発現場で必要とされる技術情報など、開催地の状況に応じた話題提供をすることで参加者のニーズに合わせたセミナー機会を提供しました。また、セミナー後の質疑応答やセミナー後の意見交換の場など、Web 上だけではなく「リアルなビジネス交流」の機会を提供しました。

開催時期、会場	開催テーマ	来場者数 (名)
2016 年 7 月、東京	企業向け業務システムで「Ruby」導入と活用を再評価	約 70 名
2016 年 10 月、松江	Ruby ビジネスセミナー	約 25 名
2016 年 12 月、東京	Ruby の導入とエンジニア組織の作り方	約 40 名
2017 年 2 月、大阪	「Ruby」導入と活用を再評価	約 50 名
2017 年 2 月、東京	Ruby Business Users Conference	約 70 名

② Ruby Campus

島根大学で Ruby を使ったプログラミング体験を実施しました。このイベントは、若い世代に Ruby を使ったプログラミングに興味をもってもらうことを目的に開催されました。イベントには大学での専攻に関係なくプログラミングに興味を持つ生徒が集まりました。

(5) ジョブボード

昨年度から引き続き Ruby の求人情報を掲載できるジョブボードを提供しています。Ruby アソシエーションの協賛会員を中心とした Ruby の求人情報を掲載しております。(非会員企業も求人掲載可能)

4) Ruby技術者認定試験事業

2016年度は海外版のGold試験を開始致しました。また学割を定価の半額に引き下げることで学生がより受験をしやすい環境を整えました。

認定者は、Ruby技術者としての技術力を公正に評価され、高い水準のRubyによるシステム開発能力を持つことを認定されます。認定によりRubyベースでシステム開発を行ううえで必要な基礎的な知識と応用力をもつことをアピールすることができます。

試験の合格者は、当財団が「Ruby Association Certified Ruby Programmer」として認定します。現在は、国内(試験区分: Silver、Gold)、海外(試験区分: Silver)で実施しており、2012年10月より当財団が直営実施(CBT受験環境、オペレーションはプロメトリック社に委託)しており、安心して受験いただける環境を提供しています。

5) 事業者認定事業

従来から実施している認定システムインテグレータプログラム(Rubyの高い技術力を持った企業を認定)に加えて、2012年10月から認定教育機関プログラム(Rubyの教育をおこなう高い技術を持った企業を認定)、認定サポート事業者プログラム(Rubyのサポートサービスを提供する高い技術を持った企業を認定)、及び認定クラウドサービス事業者プログラム(Rubyアプリケーションの運用に適したクラウドサービス(IaaS、PaaS)をおこなう高い技術を持った企業を認定)の各プログラムを実施しています。2017年3月6日時点での認定企業数は以下のとおりです。

認定種別	Gold	Silver
認定システムインテグレータプログラム	29(27)	64(66)
認定教育機関プログラム	3(3)	1(0)
認定サポート事業者プログラム	2(2)	—
認定クラウドサービス事業者プログラム	3(3)	1(1)

※()内は前年度数

6) 協賛会員事業

・会員資格

法人、任意団体及び個人

・会員種別、会費

年会費 1口 10万円(4月を開始月とします)

①Platinum Sponsor 5口以上(50万円以上)

②Gold Sponsor 2口以上(20万円以上)

③Silver Sponsor 1口以上(10万円以上)

2017年1月27日時点での協賛会員数は、以下のとおりです。

Platinum : 年間 5 口以上	Gold : 年間 2 口以上	Silver : 年間 1 口以上
12(13)	21(18)	49(49)

※()内は前年度数